

【ポスターセッション】

## 地域の社会福祉協議会と地域の大学との協働による 調査研究結果の活用と実効性について

—A市社協と九州看護福祉大学との協働の調査結果の分析から地域福祉の方向性をみる—

○ 西島 衛治 (九州看護福祉大学・3665)

姫野 建二 (九州看護福祉大学・4908)

キーワード：地域福祉・中学生・意識調査

### 1. 研究目的

第2期A市地域福祉活動計画の策定に伴い、将来を担う中学生の意識から今後のA市の福祉の在り方を探り、福祉のまちづくり推進の検討資料を得ることを目的とする。

### 2. 研究の視点および方法

1. 調査概要：1) 調査対象者：A市内の中学校に通学する中学2年生、2) 調査期間：2014年11月25日(火)から同年12月15日(月)、3) 調査方法：A市内の中学校7校にアンケート用紙を送付し、生徒に教員から配布を行い回収した。4) 対象者数と回収率：702人に配布し665人から回収した。回収率は、94.7%である。

### 3. 倫理的配慮

アンケート調査の説明を行い、教員と生徒の同意の上調査を実施した。

### 4. 研究結果

性別：男子が、51.3%、女子が、48.3%、無回答(0.4%)。家族構成：二世帯386(うち一人親31)、三世帯家族267(内一人親52)など。家族との会話：「よくする」が、459、「時々する」が172など、「ほとんどしない」が、26など。放課後の遊び場所：自宅が309、友達の家は、169、店が133、その他が61など。放課後の過ごし方：部活動が、506、勉強が183、習い事が120、ゲームが102。近所との会話や挨拶の頻度：「よくする」275、「時々」183、「あまりしない」81、全くしない24。近所の大人からの挨拶や声掛け：会えば必ず声をかけてくれる189、ときどき声をかけてくれる408、ほとんど声をかけてくれない45、まったく声をかけてくれない15、無回答8。あなたの家族や周囲で、日常生活の中で手助けが必要な支援者の有無：いる125、いない529、無回答11。福祉のことについて：質問①A市社会福祉協議会の認知。1. 名前を知っているし、活動の認知：(10)、名前を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている(48)、名前を知っているが、どんな活動をしているかは知らない(209)、名前も知らない(393)無回答(5)。質問③福祉体験(複数回答可)：車いす操作(339)、高齢者疑似体験(183)、ブラインドウォーク(102)、手話(234)、点字(339)、聴覚障がい者との交流(83)、視覚障がい者との交流(75)、認知症サポーター講座(69)、その他(2)、体験なし(134)。質問④「福祉」のイメージ(2つ回答)：助け合う(324)、かわいそう(9)、やさしさ(99)、幸せ(22)、お年寄り(255)、障がい者(117)、困っている人(64)、介護(402)、その他(5)無回答(13)。問⑤地域活

動や福祉の情報の入手：学校（357）、テレビや新聞（316）、親や友人の会話から（126）、インターネット（43）、携帯電話（6）、市広報「A」（205）、社会福祉協議会広報「きずな」（37）、町内の回覧板や掲示板（109）、その他（19）無回答（36）。質問⑥ボランティア活動の経験内容：ある：259 ない：401 無回答：5。「ある」と答えた人の活動内容：・清掃活動・廃品回収・花植え・あいさつ運動・老人ホーム慰問・保育園訪問・赤い羽根募金・福祉学習会・餅つき・障がい者の手助け・ロアッソスタッフ・東北の被災地で子どもたちの手助け。質問⑦ ⑥で「ある」と答えた人がボランティア活動をしたきっかけ：自分から進んで（34）、友達に誘われて（26）、親に勧められて（56）、先生に勧められて（41）、その他（101）[学校行事・委員会活動・クラブ活動で・地域活動・子供会活動・じいちゃんに誘われて・トラック協会の活動・ボーイスカウトで・なんとなく・暇だったから・決まりなので・強制的に・景品があるから]、無回答（2）。(7) 質問⑨誰もが住みなれた地域で安心して生活していくために必要なこと（3つまで回答）：あいさつから始まる近所付き合い（449）、地域の身近な問題の発見と解決（195）、支えあい活動「見守り」「話し合い」「助け合い」への参加（177）、日常的な仲間づくり、交流のための場づくり（176）、地域福祉を担う人材の発掘（地域活動のリーダーの育成など）（39）、日常生活で困っていることの把握（167）、情報の提供など関係機関との連携（行政、学校との活発な意見交換など）（66）、町内会、子ども会やボランティアなどの活動への参加（190）、世代間交流への参加（27）、その他（13）、無回答（12）となっている。

## 5. 考察

家族構成は、二世帯が 386（内、一人親 31）、三世代家族が 267（内、一人親 52）と二世帯が多く、ひとり親も合計 83 世帯もある。日常生活の中で手助けが必要な支援者の有無においては、いる（125）、いない（529）と身近に支援が必要な市民がいると感じている。A市社会福祉協議会の認知では、名前を知っているが、どんな活動をしているかは知らない（209）以上に名前も知らない（393）が多く。福祉教育での社協の意味を議論する必要がある。「福祉」のイメージでは、介護（402）、助け合う（324）、お年寄り（255）、障がい者（117）と福祉と介護の関連を強く意識していることが明らかになった。ボランティア活動の経験内容では、ある（259）、ない（401）と経験が少ない。「ない」と答えた理由では、きっかけがない（209）、時間がない（164）と答えており、ボランティアの体験学習などが必要である。地域で安心して生活していくために必要なことは、あいさつから始まる近所付き合い（449）が、最も多い。地域の身近な問題の発見と解決（195）、町内会、子ども会やボランティアなどの活動への参加（190）、支えあい活動「見守り」「話し合い」「助け合い」への参加（177）、日常的な仲間づくり、交流のための場づくり（176）、日常生活で困っていることの把握（167）などがあげられており、地域力の必要性は、感じている。今回は、単純集計結果から考察したが、今後は、クロス集計とカイ二乗検定を行い、調査項目間の相関関係について分析し、その背後について考察していきたい。